

1 業務内容について

2月に引き続き3月15日までは確定申告に対応しました。3月に入ってから連日多くの住民の皆様が市役所に来庁されました。最後の週にはさらに多くの方が押し寄せるかと思っていましたが、大きな混乱もなく落ち着いていました。確定申告が終わってからは、申告書のデータを入力する作業が主な業務内容でした。

2 追悼式について

東日本大震災から1年が経った3月11日には、市民文化会館にて追悼式が行われ、私も参加させていただきました。式の中で遺族代表の方による追悼のことばや中学生の作文を聞いて、改めて震災によって受けた被害の大きさを痛感しました。最後には、献花もさせていただきました。そして、午後2時46分になると町全体に追悼のサイレンが鳴り響いて、その場で黙祷をする人が多く見受けられました。その光景は決して忘れません。

震災から1周年という特別な日を被災地で迎えたことで、私自身の震災に対する考えを見つめ直すことができ、佐久市からでも自分ができる支援活動を行っていきたくて思いました。

3 派遣を終えて

1月からの3ヶ月間はあっという間に過ぎていきました。仕事面では、慣れない住民税の業務ということで不安でいっぱいでしたが、大船渡市税務課職員の方々の親切で暖かいご指導により何とかこなすことができました。中でも確定申告を通して市民の皆さんと直にお話できたこと、また、他県から支援で来られた職員の方と交流できたことが、今後自分が仕事をしていく上で貴重な財産となりました。

生活面では、ホテル福富の従業員の方には大変お世話になりました。従業員の方の中には被災された方もいらっしゃるが、それでも私達の前では明るく丁寧に対応してくださって、本当に元気づけられました。夕食が提供される見通しはまだ立っていませんが、早く元のように戻って欲しいと思います。近いうちにはまたホテルを訪れたいと思います。

休日には大船渡市以外にも何ヶ所か被災地に足を運ばせていただきました。現地の光景を目の当たりにしたときは、本当に言葉を失いました。1年が経った現在でも震災による傷跡が生々しく残っていました。



【大槌町役場 3月21日撮影】



【宮城県石巻市立大川小学校 3月28日撮影】

この3ヶ月間は、震災による脅威を肌で感じる一方で、人の絆や強さも同時に感じる
ことができた日々でした。新聞やニュースでは連日震災に関する報道があり、復興活動
はまだまだこれからかと思えます。私もこの度の派遣による支援で出会った皆さんとの
縁を大切に、微力ではありますが、今後も何かお手伝いできたらと思っています。

最後に、この3ヶ月間大変お世話になりました大船渡市の職員の皆さん、優しく接し
てくださった市民の皆さん、ホテル福富の従業員の皆さんに心から感謝いたします。本
当にありがとうございました。